

研修事例	人材育成	<h1>次世代技術活用人材育成事業</h1>
支援先 県内中小企業		

【概要】

本事業は県内中小企業の研究開発人材の育成を目的とし、平成28年度から実施しております。企業の課題として人材育成を挙げる企業は多く、特に、「開発設計のリーダーを育てたい」「次世代技術を事業に活かせる人材を育てたい」という要望に対応するため、以下の3つの研修を実施しました。

① 現場リーダー育成コース（表1）

期間：(必修) 令和5年 7月25日
8月1日
(選択) 令和5年 8月30日
8月31日
9月12日
修了者：(必修) 12社20名
(選択) 10社16名
内容：研究開発に必要な基礎知識の修得



図1 現場リーダー育成コースの様子

② 技術修得コース（表2）

期間：令和5年 7月6日から
令和6年 1月23日まで
修了者：26社34名
内容：研究開発に役立つ技術手法の修得

③ 機器操作コース（表3）

期間：令和5年6月～令和6年2月
(各設備 半日程度)
修了者：25社79名
内容：研究開発に向けた機器活用法の修得

表1 現場リーダー育成コースの内容

コース	実施内容
必修	情報を整理して正しく考える思考法、産学官金連携、市場とマーケティング、プロジェクトマネジメント、製品開発、知的財産戦略、センターの業務紹介
選択	プロジェクトマネジメント実践 知的財産実践

表2 技術修得コースの内容

コース	実施内容
デジタル技術	リバースエンジニアリング
IoT活用	センシング技術
分析評価	品質保証に向けた不具合解析
産業用ロボット	安全特別教育（教示・検査）

表3 機器操作コースの内容

対象機器	実施内容
	三次元測定機、スガ摩耗試験機、走査型電子顕微鏡、RFイミュニティ機器、EMI機器、射出成形機、分光測色計、X線回析装置、蛍光X線分析装置等

【研修の成果】

これらのコースに参加した受講生の学んだ技術が、企業の新たな取組に活用されています。例えば、技術修得コース（デジタル技術活用）に参加した受講生が、自社で今後実施する将来の金型更新に向け、当センターの3Dスキャナを活用して、現在使用している金型の形状データを保存するといった取組につながっています。

基礎となった事業	令和5年度 次世代技術活用人材育成事業				
担当グループ	IT・マテリアルG	グループ長	青木 邦知	TEL:029-293-7482	
		主 任	上田 聖		
		主 任	岡田 真		
		会計年度職員	沖島 由幸		
		会計年度職員	楯 尚史		

